

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 4 月 3 日

【評価実施概要】

事業所番号	0172001042		
法人名	医療法人 輪生会		
事業所名	グループホーム 朝里		
所在地	小樽市朝里2丁目6番18号 (電話) 0134-54-0606		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年3月30日	評価確定日	平成21年4月17日

【情報提供票より】 (21年 3月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 16人、非常勤 3人、	常勤換算 17.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 24,000円 暖房費(10～4月) 7,000円
敷金	(有) (40,000 円) ・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (3月 12日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	10 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 71 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人輪生会朝里病院、医療法人みやび会朝里整形外科、医療法人社団空間歯科
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの職員は、利用者の性格や気持ちを理解して家族同様に明るく親切に接しており、和やかで温かい雰囲気に包まれていることに家族は満足され、職員は感謝されている。職員同士の人間関係も良好であることや運営法人系列の24時間対応病院が近くに有り、職員の介護意識を高め、きめ細かいケアプランに基づいたサービスに反映されている。共有スペースは総じてゆったりとして暮らしやすい構造で利用者の作品や鉢植えの花で飾られ家庭的雰囲気がある。居室も十分なスペースに加え、クローゼットと机、テレビ台、仏壇置き場など多目的に利用可能な可動式棚が設置されて住みやすい構造であり、家族の安心出来るホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善項目のうち、「地域密着型サービス理念の明示」や「運営推進協議会のメンバー増員」は課題として検討中であり、「家族への報告」や「職員の人材育成」は報告内容や外部研修への派遣など、改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、項目毎に分けて職員全員に配布され、各自が記入したものを計画作成者がまとめ、管理者が最終的に点検して作成している。評価結果の内容に応じてミーティング等で協議しながら、具体的改善に取り組む、利用者のケアサービスに反映させるよう努めている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は20年度6回開催しており、ホーム運営状況や利用者の生活状況報告、インフルエンザ及びノロウイルス対策、避難訓練への協力要請など行なっている。現在、運営推進会議の外部参加者が少ないため、町内会関係者、教育関係者などメンバー増員が課題となっている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム入口に意見箱が設置され、苦情処理体制も整っているが、家族からの要望や意見等は、殆どが家族来訪時に、直接管理者や職員に話されている。家族の意見等は内容によって直ちに対応するか、ミーティングで検討して改善するよう取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域住民の理解度も高まってきており、近隣の方々による菜園手入れの手伝い、ボランティアによる慰問活動受け入れなど、地域との交流が進んできている。町内会から諸行事への参加案内もあるが、介護度の高いことや車椅子利用者が多いため行事への参加が困難な状況にあり、利用者地域との交流をどう行なうか模索中である。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の自立支援を基本とした運営理念を有し、これに基づいた支援を行なっているが、地域密着型サービスを内容とする理念はまだ盛り込まれていない。	○	ホームの理念に、地域とのつき合いを大事にしながら、互いに支え合う関係を深める内容を追記することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人職員採用時に、ホームの理念を説明している。さらにホーム入口などに理念を掲示し、ミーティングにおいて理念に基づくサービスのあり方を再確認しながら、利用者のサービスに反映させるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入し、ADLが厳しい状態の利用者が多いものの、出来るだけ諸行事へ参加して地元との交流に努めている。このため、地域住民の理解度も高まり、菜園手入れの手伝いやボランティアに来ていただくなど、周辺住民との連携が進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を職員は理解しており、自己評価作成には項目毎に分担しながら全員が参加している。評価結果はミーティング等で確認しながら、課題解決に向けて取り組んでいる。		

小樽市 グループホーム 朝里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	20年度は運営推進会議を6回開催し、ホーム運営状況や利用者の生活状況報告、インフルエンザやノロウイルス対策の説明、避難訓練実施状況報告と協力要請、参加者との意見交換を行ない、サービスに反映させている。	○	運営推進会議に外部参加者が少ないが、会議は地域にホームを理解していただく手段でもあり、参加者の意見要望はホーム運営上効果的であるため、町内会関係者や教育関係者など参加メンバーの増員を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは市の担当部署を訪れ、運営状況報告や制度上の相談、各種情報の収集など市との連携に努めながら、利用者へのサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームを訪問した際に、その都度、利用者の生活状況を報告している。ホーム便りは発行していないが、毎月の請求書等と一緒に利用者の担当職員がお便りを同封して、暮らしぶりを伝え、家族から感謝いただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、要望、苦情等は管理者が整理し、申し送りやミーティングで協議し、支援経過記録表に記載しながら改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者への影響は殆ど無いが、不安やダメージが見受けられると判断したときは、職員が穏やかに話しかけるなどの対応をするように心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、運営法人の病院での新人実習や法人主催の学習会に参加している。さらに、グループホーム協議会主催など外部研修参加の機会もあり、研修結果はミーティング時の報告や感想文提出によって、職員の共有となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の管理者会議を通してほかのグループホームとの情報交換を行なっている。管理者はほかのホームからの利用者受け入れなどで同業者を訪れることもあるが、職員は業務多忙やローテーションの都合などからほかのホーム見学などの機会は少ない。	○	ほかのグループホームとの交流や視察は、利用者へのサービスのあり方を見つめ直し、質的向上のため効果的であるため、今後、職員のほかのホーム視察を含めた交流を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者がある時は事前に家族と打ち合わせを十分に行ない、利用者にも出来るだけホームに来ていただきながら、ホームの雰囲気慣れていただくよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を介護される側としての一方的立場ではなく、長い人生の経験者として、それぞれの得意分野を教えていただくなど、生活を共にする家族の一員として接している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報を参考にしながら、利用者一人ひとりの希望や意向を十分に把握するよう努めている。把握が困難な時は、根気よく話しかけたり、表情や行動から判断するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族の希望等も把握しながら、ケアマネジャーが中心となって職員全員で作成し、計画内容を共有している。日常的には利用者の担当職員が計画に基づく支援を実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は個別記録用紙等で管理されており、利用者の状況をチェックしながら、3ヵ月毎の定期見直しを実施している。利用者に状態変化がある時は随時見直しを行ない、家族に説明している。	○	作成した介護計画とこれに基づくサービス実施に際して、計画内容を職員が十分に把握していない部分もあるため、職員は介護計画を十分に理解し、ケアマネジャーと連携を密にしながら利用者の支援に努めるよう期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や花見などホームの車両を利用して外出支援を行なっている。さらに介護や認知症の相談を受けたり、家族の宿泊可能な多目的室を用意しているなど多様な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営法人の系列である協力医療機関が近くに有り、24時間対応であるが、利用者のかかりつけ医や希望の医療機関への受診も自由で、家族の付き添いが不可能の場合はホームの職員が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは、重度化に対する指針を作成し、協力医療機関との連携や看護師の週2日訪問など医療連携体制を整えている。利用者の入居時に家族へ重度化への対応を説明し、了解をいただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の介護計画等の各種書類は適正に管理されており、職員の利用者への言葉かけなども誇りやプライバシーを損なわないよう十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者がその日に何をしたいかを把握しながら体調にも配慮し、ホーム内での各種役割や手芸等の趣味のほか、散歩や買物など、希望に応じた外出などの支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームには車椅子使用者が多いが、身体を動かせる利用者は食事準備や後片付けを職員と一緒にこなしている。食事中は職員も共に同じ食事を取り、話しかけたり食事介助を行ないながら家族的な雰囲気でも過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則として週に2～3回、午後の時間帯に実施している。入浴日には該当利用者に声をかけながら一人ひとりの希望を聞き、無理をしないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、それぞれの趣味や好みに応じて習字、カルタ、トランプ、ビデオ鑑賞などを楽しんでいる。また、ボランティアによる踊り、琴演奏、ハーモニカ演奏などがあり、ホーム内での楽しみごとや気晴らしの支援を実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には庭の椅子でくつろいだり、散歩や買物に外出している。利用者の誕生月には希望の施設(博物館など)へ職員が付き添って出かけたり、ホーム車両で希望者が花見見物に出かけるなど外出を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。2階のユニット入口のみ施錠の時があるが、これは不自由な身体で出て行こうとする利用者が居るため、階段での事故防止のための臨時的処置でやむを得ない。		

小樽市 グループホーム 朝里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をいただきながら避難訓練を実施している。運営推進会議においても、地域の方々がホームの訓練に協力していただけるよう要請している。	○	避難訓練は定期的には実施しているが、今後は、夜間想定訓練や地域住民にも参加していただくような取り組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取量を記録し、利用者の身体状況に合わせて、病院の栄養士がチェックした献立によって栄養バランスに配慮された食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ロビーや食堂居間は広く、畳スペースもあってゆったりとしている。壁面には習字など利用者の作品や鉢植えの植物などが飾れ、温かみのある家庭的な雰囲気に満ちている。敷地内には菜園があり、収穫時の採り入れを利用者は楽しみにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は十分なスペースを有し、クローゼットや多目的可動式棚の設置によって室内の整理が容易である。ゆったりとした室内に、利用者は好みの家具など自由に持ち込み、居心地良く過ごしている。		

※ は、重点項目。